

知的障害特別支援学校における 教育・支援活動の評価に関する研究

1. 問題提起

特別支援教育においては子どものニーズを的確に把握しながら教育・支援を行っていくことが求められる。その上では、子ども一人ひとりに対する適切なアセスメント(個人のアセスメント)を実施する必要があるが、アセスメントの対象を個々の子どもが影響を受ける「(子どもの)集団」「学校」「家庭」「地域社会」へと広げることにより、教育・支援にとって有益な情報が得られることがある。子どもの集団とはクラスメイトや仲間集団(友人)など、学校とは教師集団や授業・カリキュラムなど、家庭とは家族構成や保護者などを含んでおり、学校や家庭は特定の地域社会のなかにあるため、子どもがどのような地域社会のなかで育っているのかもアセスメントの対象となり得る。本研究では、上記のうち学校に対するアセスメントを保護者と所属する教員によって実施することで、調査対象校における教育・支援活動の現状を把握するとともに課題を明確化することを目的とした。

2. 方法

(1) 調査対象

知的障害特別支援学校(1校)の小学部、中学部、高等部の保護者(57名)および教員(21名:小学部8名、中学部7名、高等部6名)を対象とした質問紙調査を実施し、保護者については52名からの回答が得られた(回答率91.2%)。

(2) 調査期間

2024年1月~2月にかけて調査を実施した。

(3) 調査内容

質問紙は学校における教育・支援の内容を中心とする17項目から構成されている(表1)。

3. 結果

調査結果は表1に示したとおりである。

表1 質問紙調査の結果

調査項目	よくあてはまる「4点」		ややあてはまる「3点」		あまりあてはまらない「2点」		まったくあてはまらない「1点」		平均									
	保護者		教員		保護者		教員		保護者		教員							
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%						
1 本校は感染症等対策の継続と安全・安心を基盤とする学校経営に努めている。	34	65.4%	10	47.6%	16	30.8%	9	42.9%	2	3.8%	1	4.8%	0	0.0%	1	4.8%	3.6	3.3
2 本校の教育目標や目指す子ども像、教育方針に共感できる。	36	69.2%	8	38.1%	14	26.9%	10	47.6%	2	3.8%	2	9.5%	0	0.0%	1	4.8%	3.7	3.2
3 お子さんの所属する学部は、子どもにとってわかりやすく、成長発達を促す学習内容が設定されている。	35	67.3%	11	52.4%	13	25.0%	7	33.3%	4	7.7%	3	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	3.6	3.4
4 お子さんは、毎日楽しく喜んで学校に通っている。	38	73.1%	15	71.4%	9	17.3%	6	28.6%	4	7.7%	0	0.0%	1	1.9%	0	0.0%	3.6	3.7
5 全校および学部の行事は、日頃の学習の成果を生かし、子どもにとって参加しやすく、子どもの成長発達を促す取り組みになっている。	37	71.2%	8	38.1%	10	19.2%	11	52.4%	5	9.6%	2	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	3.6	3.3
6 本校では、授業や行事等を積極的に公開し、学校での子どもたちの様子を知るための機会を設けている。	35	67.3%	14	66.7%	15	28.8%	4	19.0%	1	1.9%	3	14.3%	1	1.9%	0	0.0%	3.6	3.5
7 本校では、心身の健康づくりや保健指導、健康相談、カウンセリング等に、積極的に取り組んでいる。	35	67.3%	9	42.9%	16	30.8%	12	57.1%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3.7	3.4
8 本校教員は日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重し、困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	32	61.5%	10	47.6%	15	28.8%	6	28.6%	4	7.7%	5	23.8%	1	1.9%	0	0.0%	3.5	3.2
9 本校教員は研究に熱心に取り組む、子どもの学習の充実に努めている。	36	69.2%	11	52.4%	15	28.8%	7	33.3%	0	0.0%	2	9.5%	1	1.9%	1	4.8%	3.7	3.3
10 本校教員は子どもの将来の進路等について発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行い、進路に関する情報を保護者に提供している。	32	61.5%	12	57.1%	15	28.8%	7	33.3%	4	7.7%	1	4.8%	1	1.9%	1	4.8%	3.5	3.4
11 本校教員は、児童生徒や家庭に関する個人情報の取扱いに配慮している。	43	82.7%	8	38.1%	7	13.5%	11	52.4%	2	3.8%	2	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	3.8	3.3
12 本校では、学部便りや電子連絡帳、ウェブページ等を通して、子どもの学校での様子を伝えている。	40	76.9%	16	76.2%	12	23.1%	5	23.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3.8	3.8
13 本校では、防火・防災や不審者への対応等、子どもの安全や事故防止に努めている。	41	78.8%	13	61.9%	11	21.2%	7	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	3.8	3.5
14 本校では、施設設備を整備し、安全と衛生を重視しながら、より良い環境づくりに努めている。	38	73.1%	10	47.6%	12	23.1%	10	47.6%	2	3.8%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	3.7	3.4
15 本校では、体罰やいじめ防止等、非暴力を基本とする実践が行われている。	37	71.2%	9	42.9%	11	21.2%	8	38.1%	4	7.7%	3	14.3%	0	0.0%	1	4.8%	3.6	3.2
16 本校は、防災等の取り組みを含む地域連携に努めている。	41	78.8%	14	66.7%	9	17.3%	7	33.3%	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3.8	3.7
17 本校では、ICT機器を活用した授業実践が行われている。	38	73.1%	15	71.4%	10	19.2%	6	28.6%	4	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3.7	3.7

4. 考察

ここでは、主として教員による評価と保護者による評価を比較しながら結果を考察し、今後の教育・支援における課題を明らかにしていきたい。結果全体をみると、教員・保護者の評価ともにすべての項目の平均値が3ポイントを超えていることから概ね適切な教育・支援が行われていると言える。しかし、相対的に低い評価となっている項目については、今後の在り方を検討していく必要がある。例えば「本校教員は日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重し、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」については、教員としての人権感覚を醸成するとともに子どもや保護者の困り感に対応する体制をより一層強化していく必要があると考えられる。

結果のなかでも特に注目しなければならないのは、保護者の評価と教員の評価に相違が認められる項目である。保護者の評価が教員の評価よりも高くなっているなかで、統計的に有意な差は認められないものの唯一評価が逆転しているのが「お子さんは、毎日楽しく喜んで学校に通っている」という項目である。この項目について「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と評価している教員がいないのに対し、保護者には「あまりあてはまらない」と評価している者が4名、「まったくあてはまらない」と評価している者が1名いた。全体的な評価は必ずしも低くないため、より個に応じた対応が子どもと保護者の双方に向けて求められると考えられる。

また、「本校では、授業や行事等を積極的に公開し、学校での子どもたちの様子を知るための機会を設けている」という項目については、全体としては保護者の評価がやや上回っているが、これは高等部における教員の評価平均が2.7と著しく低下しているためであり、小学部と中学部の評価においては保護者の方が低い評価となっていた。新型コロナウイルスが5類に移行したとはいえ、その影響が完全にはなくなっていない状況下ではあるが、この点については保護者が学校の活動に参加する機会を積極的に設けるとともに、電子連絡帳やWEBPAGEなどを活用した情報共有を通して保護者との連携を一層緊密にし、子ども一人ひとりのニーズおよび保護者の期待に寄り添う教育・支援に向けた具体的な取り組みを検討していく必要があると考えられる。